

## 玉来ダムの検証に係る国の対応方針が決定されました

発表日：平成23年10月27日

### 玉来ダムの検証に係る国土交通大臣の対応方針決定 に関する大分県知事コメント

本日、国土交通大臣は県営の竹田水害緊急治水ダム(玉来ダム)建設事業を継続実施とする旨の対応方針を決定しました。

玉来ダム建設事業については、国から「ダム事業の検証に係る検討」を行うよう要請を受け、平成23年3月4日付けでダム事業を継続実施すべきとの本県の考え方を報告していたところです。

竹田市は平成2年7月の梅雨前線による豪雨で、浸水家屋1483戸、浸水農地2087ha、被害総額466億円に及ぶ甚大な被害を受け、交通機関の断絶などにより長期間にわたり都市機能が麻痺するなど住民生活に甚大な影響が生じました。

そのため県としては、玉来ダムが治水の面から非常に必要性が高く、県民の安全安心を確保するため重要なダムであると位置づけて事業を進めて参りました。

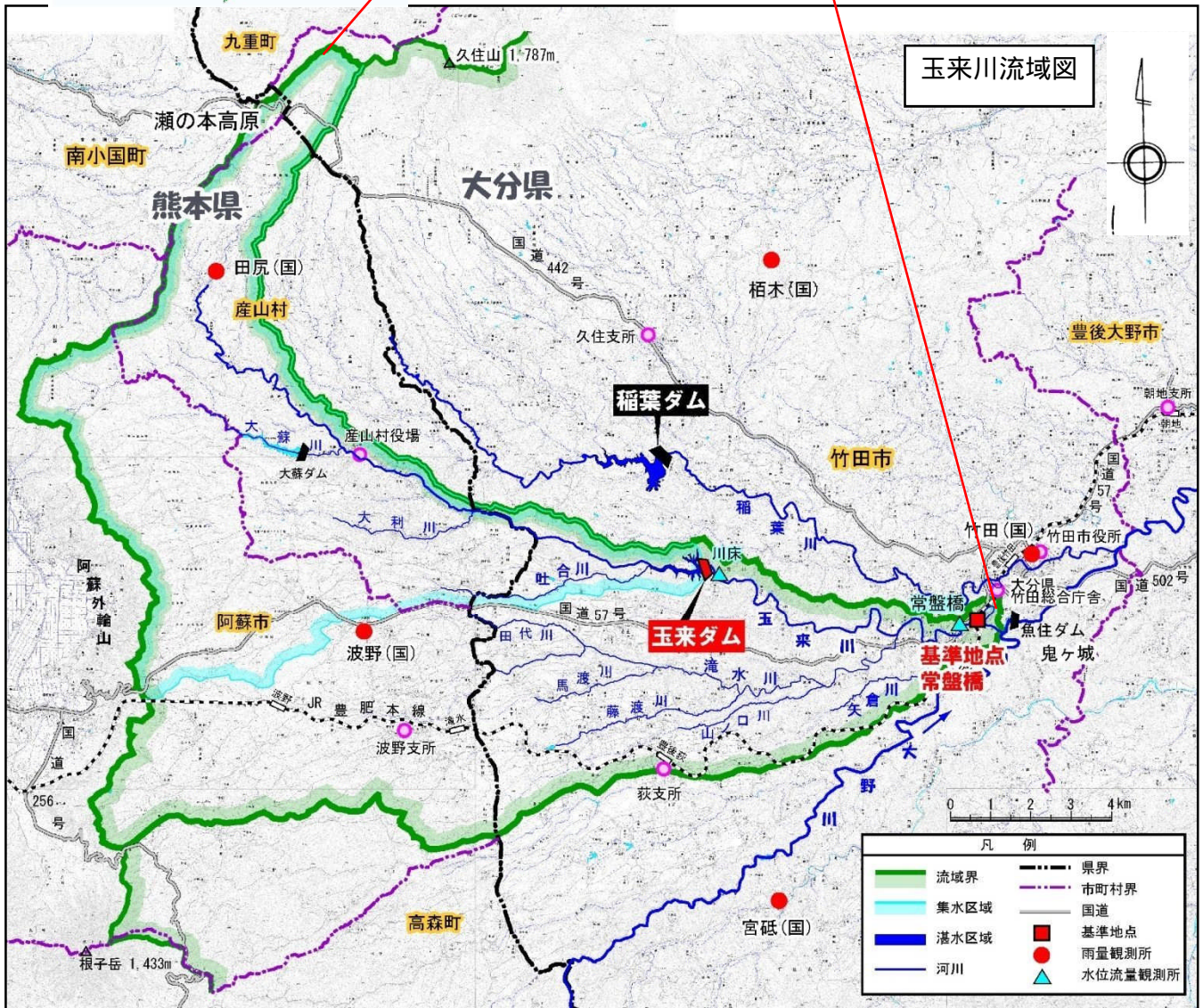
今回の決定は、本県の従来からの主張と今回の検証が認められ、評価されたものと考えています。

新たな段階を踏まえ、今後国に対して予算要求を行い、ダムの詳細設計・用地買収・本体工事発注と順次事業を展開し、地域住民の安全・安心のために一日も早いダム完成を目指して参ります。

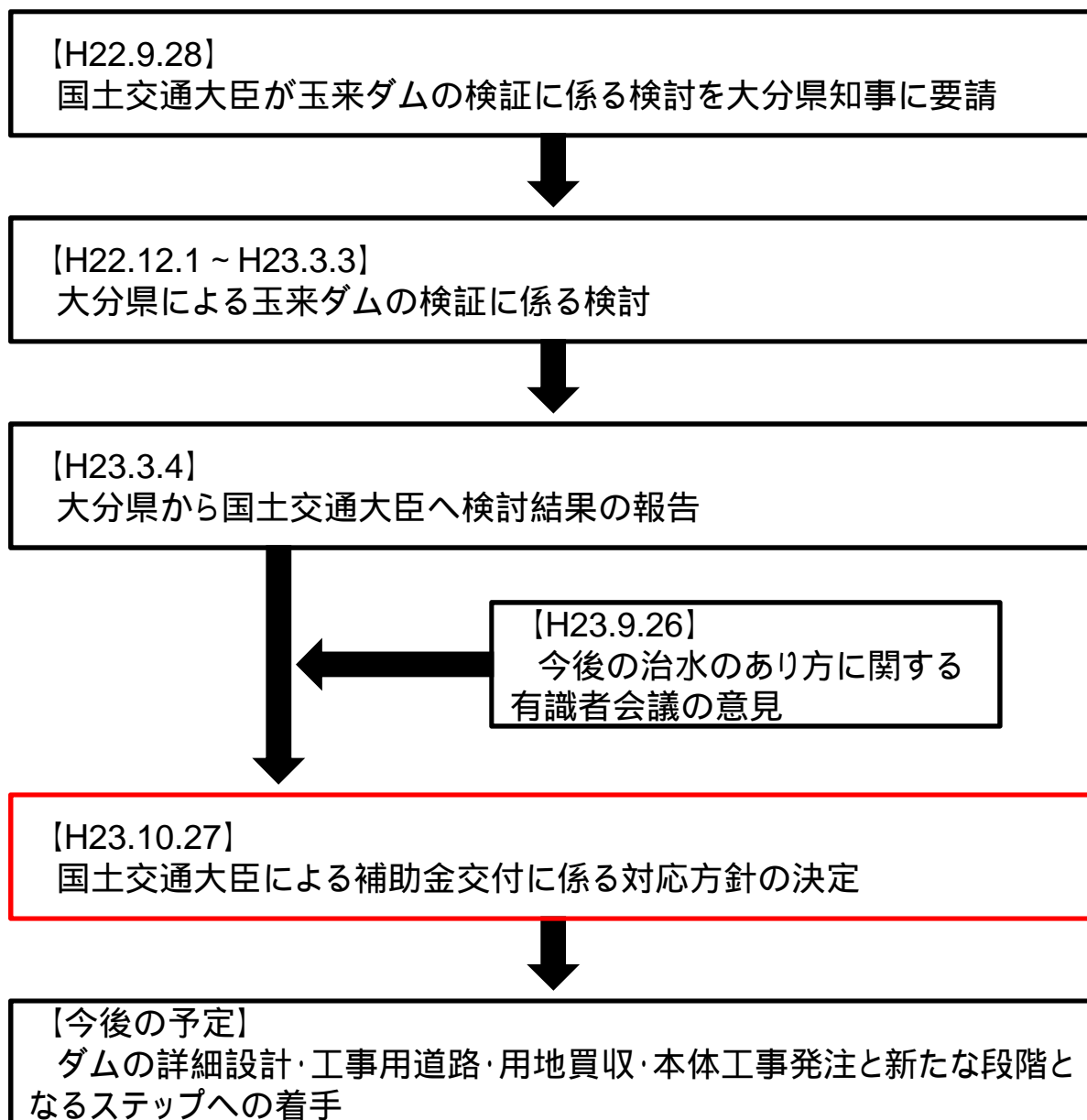
平成23年10月27日

大分県知事  
広瀬 勝貞

# 玉来ダム位置図



## 玉来ダム検証の流れ



「ダム事業の検証に係る検討」の発端

平成21年12月、政府は「できるだけダムにたよらない治水」へ政策転換を行うこととし、全国のダム事業を、継続して進めるものと、継続すべきか否かの検証が必要なものに区分する閣議決定を行った。

これを受けて、平成22年9月、国土交通大臣は、検証が必要とされるダムについて、同大臣の諮問機関である「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」が示した基準に沿って、玉来ダムなど補助ダムの必要性について検討を行うよう各都道府県知事に要請した。

# 竹田水害緊急治水ダム建設事業(玉来ダム)概要

玉来川流域は、近年、昭和57年7月洪水(竹田水害)、平成2年7月洪水(豊肥大水害)など立て続けに大きな水害が発生している。特に、戦後最大となった平成2年7月の豪雨では、家屋の流失・全半壊、道路橋(4橋)、鉄道橋(1橋)の流失に加え、国道57号の冠水による交通途絶(約1週間)やJR落橋による交通途絶(約1年)により、市民生活に大きな被害をもたらした。

これらの災害を契機に、平成3年竹田市街地上流に稲葉ダム・玉来ダムを建設する「竹田水害緊急治水ダム建設事業」が2011事業として事業採択を受け、稲葉ダムについては平成22年度完成、玉来ダムは現在、調査設計中であるが、竹田地域の住民の悲願であり早期完成が望まれている。

## 過去の被害状況

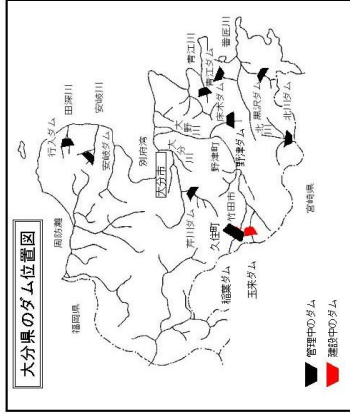
S57 被害額 71億円 浸水家屋 356戸  
 H2 被害額 466億円 浸水家屋 1,483戸



桜瀬(さくらせ)橋付近の被害状況  
 (平成2年7月梅雨前線豪雨)



JR豊肥本線鉄道橋の流出  
 (平成2年7月梅雨前線豪雨)



## 1. 事業概要

場所 玉来ダム

河川 一級河川大野川水系玉来川

左岸 竹田市志土知

右岸 竹田市川床

## 目的

・洪水調節(玉来川の洪水防衛)

## 経緯

玉来ダム

平成3年度

平成21年度

建設事業着手  
 水文・地質・地形調査、  
 ダム本体概略設計

基本設計合議(サイト・型式)にて  
 ダム位置、ダム型式了承

国のダム見直しの検証対象  
 継続調査及び検証実施  
 国の方針決定を受け、事業継続予定

## 2. 事業費

全体事業費 C=195億円、残事業費 C=175億円(H22までの既投資額 C=20億円を除く)

H23事業費 C=151,154千円 県予算は500,000千円を用意し、

方針決定後、追加予算を要求中

## 3. 玉来ダムの貯水容量配分と標準断面図

■ダム型式 : 重力式コンクリートダム  
 (流水型ダム)

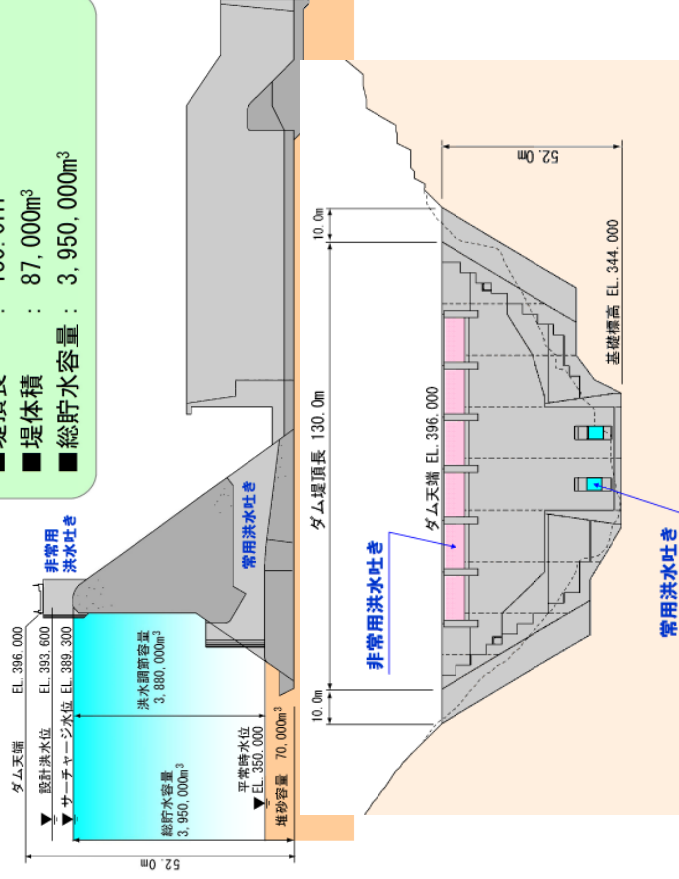
■ダム高 : 52.0m

■堤頂長 : 130.0m

■堤体積 : 87,000m<sup>3</sup>

■総貯水容量 : 3,950,000m<sup>3</sup>

## 《玉来ダム標準断面図》



## 4. 玉来ダム完成イメージ



玉来ダム完成イメージ